2018.07.22

信州旅行

小嶋祥三

レンタカーで諏訪大社と蓼科方面に妻と１泊旅行をした。車の運転は2016年９月以来だ。ハイブリッドカーは初めてだった。運転や乗り心地は通常の車と変わらない。車線を少し外れると、また、前の車が動いているのに停まったままでいると警告音が鳴り、いささか煩わしいが便利になっていた。乗り初めは少しドタバタしたが、それでも動き出せば昔の感覚がよみがえってきた。首都高速の永福入り口をうまく見つけられるか心配したが、何とか見つけ、後は問題なく中央道を西へ。

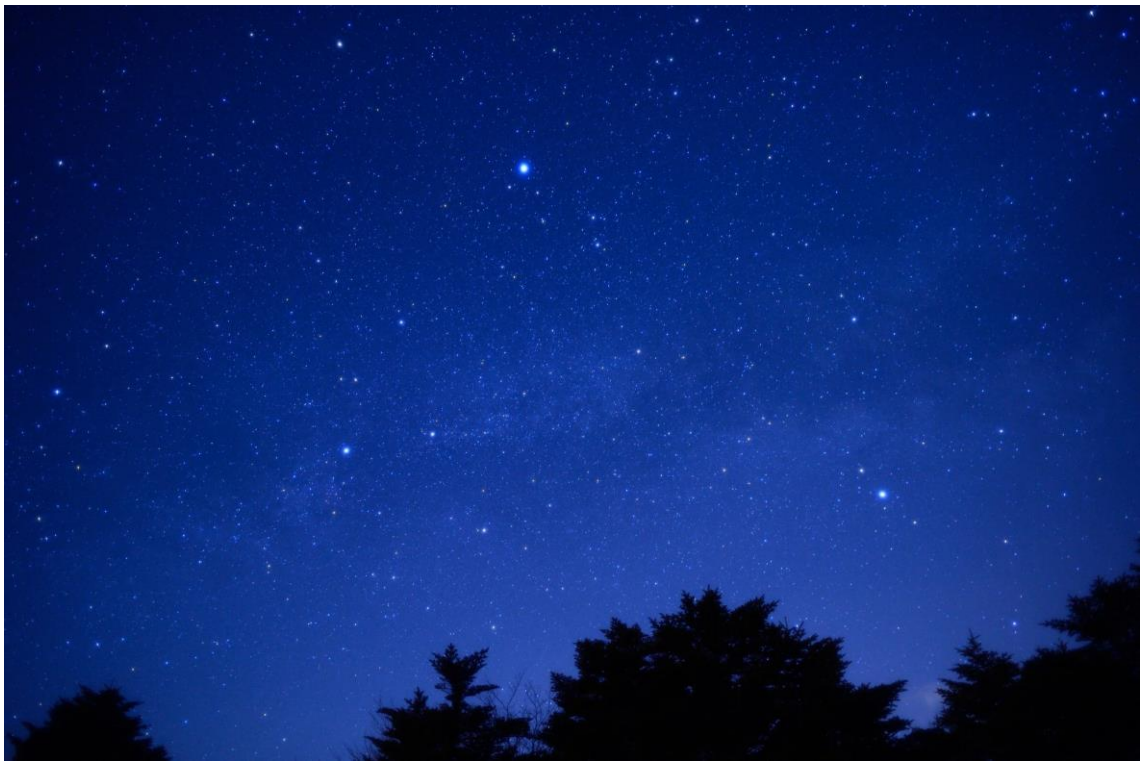
中央高速は快適に飛ばした。諏訪インターで下りる。前にも書いたが、カーナビはとても便利だ。カーナビなしではスムーズにはいかない。まず、諏訪大社上社本宮へ行った。大きな神社だ。古い建物がたくさんある。御柱もあった。その後、諏訪大社下社秋宮、諏訪大社下社春宮へ。秋宮にはやはり御柱があった。春宮では砥川の河畔に「万治の石仏」があり、お参りをした。そしてビーナスラインで宿の「山本小屋ふるさと館」に向かう。宿は少し変わった作りの部屋だった。部屋に個別の風呂はない。部屋番号で貸切風呂の予約をする。風呂も変わっていた。エラク、深い風呂だ。温度はちょうどよい温度。外にも出られて、外気温が火照った体に気持ち良い。食事には骨まで食べられるイワナの塩焼きなど、いろいろと出てきた。

宿には夜のツアーがあった。それは星を観ることと夜中のシカを観ること。この宿は「星空へ続く宿」と宣伝しており、天体観察がウリの一つになっている。左の写真は宿の所有

する天体望遠鏡である。ただ残念ながら、雲が多く木星が見えてもすぐに雲に隠れてしまった。そこで皆さんはシカの見物に行った。わたしらはシカには興味がなかったので残り、雲が晴れることを期待していた。そのうち、雲が晴れ、木星、土星が見えるようになった。火星も地平（といっても山がある）近くに赤く見えた。宿の従業員の女性がでてきて、天体望遠鏡の操作をしてくれた。そしてまず土星を観た。丸い土星とそれを取り囲む輪が見えた。次に、木星を観た。ぼんやりと縦の縞が２本みえ、木星の衛星が３つの点となっていた。そして月のクレーターもみせてくれた。そのほか、北斗七星、北極星、カシオペアがみえた。さそり座の全体、α星のアンタレスも当然見えた。東京では今はみる

ことができないいて座が、子供のころみたあの王冠のような姿で、輝いていた。そして、こと座のヴェガ、白鳥座のデネブ、わし座のアルタイルによって構成される夏の大三角形がみえた（下の写真）。天の川はみえなかったのは残念だった（次の機会にしよう）。シカ見物に行かなかったおかげで、天体望遠鏡をわたしら夫婦だけで独占できたのは幸運だった（ツアーの参加者は数十人もいた）。待った甲斐があった。

宿には朝のツアーもあり、牧場に行きポニーにニンジンをあげたり、牛を眺めたりした。天気が良く、北アルプスの槍ヶ岳や穂高岳がよくみえた。その後朝食になったが、ピザや果物など盛りだくさんで、老人にはとても食べきれない。出されたパンはお土産として持たせてくれた。サービスはいたれり、つくせりの宿だった。



夏の大三角形。Wikipedia より拝借。
上がこと座、左下が白鳥座、右下がわし座